



いっしょに、育っていく

長谷川順子 / はせがわ・じゅんこ
“子育て・共育ちサロン みっくすじゅーす” 世話人

週 一回の子育て・共育ちサロンは、子連れのママたちと地域のひととの交流の場所。生後間もない長男と参加してから11年。みんなに美味しいコーヒーを淹れるため、今も欠かさず通い続けている。

成人になった長女が半年の頃に離婚して実家に戻った。都会での子育て、慣れない生活。水も合わなかった、という理由だけでは無いが、カラダが生まれ育った土地を何よりも欲していた。四方を緑に囲まれた土壌は、わたしにとって不可欠である。縁あって再婚し、親子三代ここで暮らしている。

どこかで「子ども一人を育てるのに村人千人が必要だ」というアフリカのことわざを耳にした。かの地では子どもの誕生を心から祝福するコミュニティがあるのか。ここでもその手をと、期待せずにはいられない。産んで育てて3人目。「こんなものなんだ」と力ま

ずに楽しめる時間がやっとなたしにもやっとなた。それも、育ての親があつてこそ。そばにいて一緒に見守り続けてくれる人たちの存在があるからである。実際、う

ちの母への同情の声も聞かれないわけではない。

しかし、子どもの頃からわたしは知っていたのだ、「母親は大変だ！」ということ。母親が子育て、家事全般を一任されているのが世の常。友人がつぶやく。「誰が母親のやることだって決めたの？」と。「ハハ、そりゃさういうものだ、決まり切っていること言っちゃって！」そう思っていた。何気に我が子にこのセリフを言ってみたが、何を言っているの、となる。

家庭だけに特化した話ではなく、このままで本当によいのか、と考えるのか、それは幸せとは言えない、と思うのか。今ここからどうしたいのか、みんなが楽しいと思える社会を考えたい。じわじわと方向性を見定め、選択する時期がもう来たのではないか。そうしたら、ちよつとずつ見えてきたことがある。「コーヒーでも飲みながら子どもや自分たちの暮らす地域で幸せを語ろう！」このコミュニティで村人千人の一人として、やりたいことをやれるところで続けていきたいな。■

「ポコポコ」は「サンゴ礁の満潮」をイメージしています。潮が満ちていくにつれ、サンゴ礁のあちこちに「ポコ」(水たまり)が現れて、ポコポコ同士がつながり始め、いつのまにか一面海になるというイメージです。アジアの各地域で「ポコ」が生まれ、気がつけばつながっているような活動をしていきたいという思いがこめられています。

子どもと食と未来のために

米国×日本 母親たちによる活動のクロストーク

ゼン・ハニーカット / Zen Honeycutt
Moms Across America設立者、専務

小野寺愛 / おのでら・あい
欄外下部に記しました。

2017年3月8日、Moms Across America (マムズ・アクロス・アメリカ) 設立者のゼン・ハニーカットさんが来日されていたのに合わせて対談を企画しました。子どもの健康問題をきっかけに「遺伝子組み換え食品ではなく、オーガニック食品を」と呼びかけるゼンさんと、食と子どもをキーワードに神奈川県逗子市を拠点に活躍する小野寺愛さんからお話を聞きました。(編集部)



マムズ・アクロス・アメリカのバナーを持って撮影。ゼンさん(右)、小野寺さん(左)。

編集部(以下編) ◎まずは、お二人の自己紹介をお願いします。

小野寺さん(以下O) ◎現在、フリーランスで4つの活動をしています。ひとつは、「エディブル・スクールヤード」の活動を日本で広めること。娘が通う公立学校の裏庭でも、小さな畑を始めました。子ども時代に種まきから食卓までがながる体験を重ねることは、

直接未来を作る仕事だと思って取り組

ふたつめは、「スローフード日本」の仕事です。世界の食の多様性を守るため、日本の在来種や伝統食を守り、紹介する仕事です。「楽しい」や「美味しい」は、人を魅了しますから、平和で持続可能な世界を実現するために「子どもと食」ほどパワフルな切り口

はないと思っています。スローフードを実践する活動として、

表紙のことば マロン。筒状になっているこの布は、寝るときにかぶってもよし、スカート代わりにしてもよし、替えるときの覆いとしてもよし、と便利なフィリピンの布だ。毎年7月、日本の高校生がネグロスに行き、現地の青年たちと交流するツアーがある。民泊をするこのようなツアーに、マロンはもってこいだ。ツアーのために毎年マロンを用意するのだが、いつもと雰囲気の違ったものに出会った。ネグロスの街が著しく変化するように、生地デザインも変わっていくのかもしれない。

毎回、ツアーが始まる前はとても緊張する。しかし、終わるころにはとても楽しんでいる自分がある。参加者も全員そう。たった1週間のツアーなのだが、交流を通じて自分を解放していく。これを「ネグロスマジック」と呼んでいる。さて今年はどんな高校生とネグロスマジックにかかれるのだろうか。(寺田俊)

CONTENTS ■ HALINA 36 2017.05.01

- 02 Relay Essay ポコポコ 36 いっしょに、育っていく ◎長谷川順子
- 03 [特集] 子どもと食と未来のために — 米国×日本 母親たちによる活動のクロストーク ◎ゼン・ハニーカット、小野寺愛
- 08 [Topics] 若者たちと語り合う — フィリピン・ネグロス島の村づくり & 岡山・美作の地域おこし ◎鬼木のそみ 多様なパートナーシップのために — 台湾における同性婚法案をめぐる ◎林彦瑜
- 10 [Column] Kakao Kita カカオ民衆交易奮闘記 18 バブアの森はワンダーランド! ◎津留歴子 百姓の100章 ◎ 種時きは〈世界共通言語〉、土は〈無限のプラットフォーム〉 — 「国際家族農業年」という世界の新たな潮流と共に ◎斎藤博嗣 & 裕子 カネシゲファームのドタバタ騒ぎ ◎ 出発前の一人ドタバタ劇! ◎寺田俊 続 Have you ever seen the cinema? ◎ 『鉄道員 ほっほや』 ◎重政栄一郎
- 12 わたしの友達友消じまん ◎ アグー豚とコーヒー引き売りの巻 ◎山本大五郎
- 13 APLA食堂 16 バナナ ◎吉田友則
- 14 [Voice from APLA partners] 【フィリピンより】 ルソン島北部・遺伝子組み換えトウモロコシ畑で
- 15 事務局だより

ブには200人ほどメンバーがいて、季節ごとに企画している収穫祭はとても楽しいです。一晩浜辺で海水を炊いて塩を作り、翌日のバーベキューに持ち寄る食材は、町の中で収穫されたもの、若しくは自分の家族や友だちが作ったものを持ち寄るというルール。200人が持ち寄った食材をもとに即席で料理を作ります。地元のシェフたちも集まって、レシピを共有してくれま

す。わかめは子どもたちが漁師さんと一緒に獲ってきて料理。飲みものは、地元のクラフトビール、持ち寄られた柑橘を絞ったジュースなど。こうして子どもと一緒に野山を歩き、この町に自生する食べものや水源を探しながら海や森を中心に地域をとらえた生命地域地図を作ったりしています。

こうした一連の活動を通じて実践しているのは、「消費者から、主体者へ」という立ち位置。少しでも衣食住を自分たちの手に取り戻すことは、楽しいし、美味しい。その積み重ねが、生産者に寄り添う心も生むし、地球の持続可能性にもつながっていく。理論より、とにかくまずは一緒に作って食べるといふことを念頭に活動しています。



コロラドでの行進風景。



テキサスでの行進風景。



アイダホでの行進風景。



オーガニックフードを呼びかけるMAAの看板。

科学調査の結果を共有したり、一緒にキャンペーンをすることで、大きな意味があります。フランスのパリでは公共の公園でのラウンドアップ使用を禁止しました。こうした情報を共有することで、この勝利は、パリだけのものではなくみんなの成果となり、大きな勇気づけになります。マムズ・アクロス・ザ・ワールドを使ってもいいし、ソーシャルメディアなどで情報交換することはとても重要です。

よく問題を理解している少数の人とイメージをもたれることもあります。そうした社会のためらいをぬぐって、勇気づけるためにもゼンさんから提案をもらいたいのですが。

「この前言ったことを覚えてくれる？」
「この前言った商品を買ってみたいよ」と話しかけてくれる人も多くいます。

みんなで食べる」こと。たとえば、みそを作ろうと思ったら、自分だけではなく、友達も誘ってやる。しかも、大人数ではなくて子どもも誘ってみたらいい。10人の子どもを誘ってみて作ってみると、必ず何かそこからはじまります。今やっていることが形になりはじめる前は、近所の子どもを集めてしょうゆを仕込んだり、みそや梅干しを作ったりしていました。衣食住を少しでも自分の手の中に取り戻そう、それを自分の子どもとするなら周りの子どもも一緒に、と動きはじめる、近所つながりができ、ちよっとしたときに子どもを預かり合う関係性も育まれました。さらに、みんなで毎年みそを作っていると、今度はさらにその原料である大豆も植えて育ててみようかという動きに自然と発展していきます。

一人ではなくみんなで。これを見ると、答えは探さなくてもおのずと出てくる。それが、10年やってきて思っていることです。

では地域活動だけをしていたらいいのかといえば、そうではなくて、世界とのつながりも大切だと思っています。エディブル・スクールヤードの場合、世界中に5000もの授業を登録する

ことがありません。その原因を突き詰めると、遺伝子組み換え(GMO)食品に原因があることが分かりました。現在、米国の加工食品の85%に遺伝子組み換え作物が含まれています。長男は4ヵ月オーガニックの食べものだけを摂ることで、アレルギー値が劇的に下がりました。また、次男が8歳の時に突然自閉症を発症しました。家族に遺伝的な問題はなく、これについても調べると、食品に含まれる農薬が問題だということがわかりました。彼もオーガニック食品と腸の細菌を復活させる治療で自閉症を克服したのです。このことがきっかけで、遺伝子組み換え作物への意識を高める運動を始め、Moms Across America(以下MAA)を立ち上げました。同じような病気を持つ子ども母親たちを中心に共感が広がり、2013年には全米の172カ所で遺伝子組み換え表示を求める行進をしました。現在私たちが注力しているのは、10億ドルをオーガニックにシフトするキャンペーンをアースデイで展開することです。100人の母親がそれぞれ1000部のチラシを配り、それを受け取った人たちが週に200ドルのオーガニック食材を購入したら、一年間で10億ドル以上の売上げになります。チラシには「なぜオーガニックを食べる

の？」というタイトルで、健康、農業、経済、気候変動について説明してあります。米国では、そうした様々なインユリーについて、各地で活動している団体がありますが、それらを同一の問題提起として示したいと思っています。また、5月20日には、科学をテーマにしたデモ行進が予定されていて、GMO推進派、反対派の双方がデモ行進をします。米国ではまだたくさんさんの推進派がいて、精神的に脅威的ですが、それよりもっと多くの人たちがGMOの問題を訴えることになると思います。MAAの代表として、こうした行進の際には、議員にも同時に会うことを進めています。ただ集まって怒っているだけでは無意味で、具体的な要求を提示することが重要だと考えるからです。

この前には、「5日間でEPAに電話をしよう!」というキャンペーンを実施しました。サイトにアクセスした人がすぐに行動できるように、Facebookのページのトップに米国の地図を置いて、各地域のEPA事務所と連邦局の電話番号を記載し、両方への電話を呼びかけました。約2000人の母親が電話をして、事務所側は常に電話が鳴りっぱなしだったようです。

これからは、もっと世界とつながりを作っていきたいです。2年前にヴァンダナ・シバさんと会うチャンスを得て、Moms Across the World(マムズ・アクロス・ザ・ワールド)を作りましたが、担当するスタッフがいない、情報更新が常にはできないという問題があります。もしファンด์が取れたら、世界中にながたい団体があるので、記事や動画などを流して、世界中の人びとが学び合えるようにしたいと考えています。たとえば、台湾のビデオがあるので、ある市議会議員選の時に母親のグループが立候補者に対して「あなたに投票する代わりに(当選したら)給食から遺伝子組み換え食品をなくしてくれませんか」と聞いたところ、ほとんどが「はい」と答え、無回答の立候補者より当選率があがったのだそうです。特に油の原料の大豆に対して対応したそうです。こうした世界中の情報を流すことによって、母親たちの助けになると思うのです。

「いただきます」とごちそうに集まる収穫祭の参加者たち。



2016年は「you grow」
という「植える、育てる」
年にしました。母親たち
に裏庭ガーデンの様子を
ネットに掲載してもらいま
した。こうした動きで母

親と農家のギャップを埋めようと思っ
ています。作り手を知ることや自分で
食べものを作ることを、つながりのな
かで動いていきたいと思います。
○大豆百粒運動もぜひ紹介したい活
動です。この運動母体が学校に大豆を
送ってくれるので、購入する必要がな
いのです。1粒で100粒なるので、
生徒が100人いれば、1万粒実りま
す。地域に1軒は手作り豆腐屋が残っ
ていて作れるはず。電話一本で、
大豆が送られて、先生も来てくれて、
やり方がすでに構築されています。と
ても簡単です。

○台湾の母親たちの例を教えてください
ました。それはとても簡単です。よ
うな市議会議員選だし、地域のことだ
からいいですね。母親たちは給食にも
気をつかっているし。
○そうした取り組みのなかで大きな
構造を見ることが必要です。手を動か

ースポートで働いてきたなかで、国際
的な問題の解決策はいつも、実は地域
での実践にあることを学びました。子
どもが生まれた10年前に、ピースポー
トでのグローバルな仕事を徐々に減ら
して、自分自身も地域で何かやろうと
思いました。一方で、世界とつながる
このパワーも知っているので、地元
に留まるだけではできなくて。たとえば、
スローフードの仕事では国際会議にも
出向いて、ファームキャンピングなど自
分の地域の仕事と世界をつなげていま
す。Think globally, and Act locally、と
いう言葉は、耳にタコができるくらい
聞いているけど、これは真実だと思っ
ます。

では問題でした。PTAでも給食に関
連してGMOの話をする「政治的だ
から」と言われました。私たちは、子
どもたちの健康問題を取り上げている
だけなのに、とても腹立たしい思いを
しました。今はそうしたことがなくな
り、「オーガニックを食べよう」と推
進できて、より多くの人が政治的な事
にも声を上げなくてはならないことを
知り始めましたが。
フリード・ファーマーズというロサ
ンゼルスで始まった活動があります
が、彼らは自転車に乗って人びとの家
に行き、庭を提供してもらって畑にし
てしまうのです。都市菜園の始まりで
す。もちろんその家の人たちは収穫物
を食べますが、残りは地元のマーケット
に売ったり、シェルターに寄付した
りします。この活動を知って「これ
こそが答えよ！自分たちで食べもの
は作らないと！」と興奮しました。自
分たちでできないことは、こうしたグ
ループとつながるのです。

○日本でも特に消費されている作物な
ので、とてもいいですね。それで多く
の大豆GMO問題をはねのけることが
できます。主要な食べものをオーガニ
ックに変えられたらとてもよいです。
一方で、GMO大豆の輸入禁止の働き
かけもするべきです。地域で動きが膨
らんで来たら、政治家も有権者の声を
聞かざるを得なくなります。
○台湾の母親たちの例を教えてください
ました。それはとても簡単です。よ
うな市議会議員選だし、地域のことだ
からいいですね。母親たちは給食にも
気をつかっているし。
○そうした取り組みのなかで大きな
構造を見ることが必要です。手を動か

たのですが、誰もやる人がいないので、
学校から予算をもらい、自ら買い物し
て、買って来たクラッカーやバナナを
何等分するか計算してメモを作りまし
た。幼稚園生には水や果物とクラッカ
ーがあれば充分なので、砂糖たっぷり
のフルーツジュースは買いませんでした。
この内容をインターネット上で共
有して、全米の母親たちがオーガニッ
クで遺伝子組み換え食品ではない「幼
稚園おやつ作戦」を実行しました。
常に私の頭の中では全国展開を想定
して、地元でやったことを全国に広げ
られるように様々な方法で発信します。
それぞれのやり方に合う人と合わない
人がいるので、多様な情報載せるこ
とで、どこかでつながれるかもしれな
いので。
愛さんは複数の組織と関わっている
とのことですが、専従のスタッフはい
るのですか？
○私自身はどの組織にも、一メンバ
ーとして関わっています。どの組織に
も、5〜10人のコアメンバーがいます
が、まだ代表の1人に固定給をつけら
れるかどうかの段階で、自身の給与
は、あつたりなかったり(笑)。
16年間、専従スタッフとして働いた
「ピースポルト」は別で、100人以
上の有給スタッフが活躍しています。ピ

＜注1＞1995年に米国カリフォルニア州バークレーにある公立中学校の校庭に、アリス・ウォーターによって創設される、必修科目「栄養教育」+人間形成の3つをゴールとし、学校の授業を通じて食べることのつながりに関して教える画期的な教育モデルとして注目されている。
＜注2＞ファーストフードやファーストライフ、地域食の伝統喪失に立ち向かい、私たちの食の選択が世界にどのような影響を与えるかなどを、暮らしの中の「食」への関心に答える形で1989年に創立された組織。現在、世界に80万人の会員。
http://www.slowfood.com/about_us/jap/welcome_jap.html
＜注3＞土に触れること、匂を楽しく瓶詰めすること、人と集うこと、「おいしい」の根っこにつながるプロジェクト。規格外有機野菜の瓶詰め・販売し、有機農園でのスキル・映画館などでのイベントを実施。http://farmcanning.com
＜注4＞地域の自然と人の暮らしをつなぐため、「食べる・遊ぶ・遊ぶ」を通して子どもと本気で遊ぶ人びとの集合体。放課後の海の学校、海のまっちゃんほか、季節ごとの収穫祭を行なっている。http://sokka.life
＜注5＞遺伝子組み換え作物の80%が除草剤のラウンドアップの主要成分であるグリフォサートは、発がん性がある可能性があり、肝臓の病気を引き起こすことが分かっている。肝臓の病気を引き起こす体の中にグリフォサートが見られ、ほとんどが水・食品・母乳・子どものウチンチンから見つかる。MAMAプロジェクト。http://www.nonsarcosamerica.com/tags/lyphosate/
＜注6＞Mothers Are Demystifying Genetic Engineering (遺伝子組み換えを「うごかす」で説明する母親たち) http://www.madage.org.au
＜注7＞政治家が市民と対話する集会
＜注8＞年に3回国際交流の船旅をコーディネートするNGO。これまで30年間で述べ6万人以上の参加者と共に、世界中の市民団体や学校と、草の根のネットワークを構築してきた。
http://www.peaceboat.org

人たちがいて、その授業はすべて公開
されています。自分も子どもの学校で
学校菜園を始めようかなと思う誰もが、
そのネットワークにアクセスすること
ができるのです。スローフードの活動
にも、世界中に、在来種を守り、遺伝
子組み換えではない、地域の自然と結
びついた本当に美味しい食べものを大
事にして、農業・漁業を応援している
人たちがいます。私は地域で仲間と「ス
ローフード三浦半島」を始めましたが、
ハッシュタグ #slowfood や #eatlocal
などをキーワードに、世界160カ国
にある支部とつながることができま
す。こうしたつながる仕組みはみんなと共
有し合うのがよいと考えています。
Z○情報があふれているとおっしゃっ
ていましたが、すでに日本の皆さんは
遺伝子組み換えのことを知っているの
でしょうか。
○そうは思いません。ただ、手を使
って何かを作ってみて初めて、その次
に調べてみようと思うようになる。私
がやっていることは、ゼンさんたちの
活動の一手前前で、そこに到達する前
に、手を動かしてみたり、社会的なテ
ーマについてもっと日常的に友達と話
ができるようになるというのが大切に
と考えています。
ファームキャンピングでは、規格外品

の有機野菜の瓶詰を作って販売
しています。ウェブサイトの会
社説明には「有機農家を支援し
ています」「もったいない野菜
を再利用してフードロスの問題
を解決します」と掲載していま
すが、そうしたことは大々的に
は宣伝しません。商品を手を取
ってくれる方へは、「この瓶詰
があれば、帰宅して5分でこんな食卓
が完成します！」と毎回3種類のレシ
ピを準備して説明するのです。言っ
てみれば、「オーガニック・ファースト
フード」。何度か瓶詰を利用してけれ
たら、自然と「売れない野菜を救っ
て、有機農家をサポートしたい」というコ
ンセプトに行き当たります。
とにかく、大人たちを動かすのはど
ても大変です。自分の子どもの学校(遠
子市立の公立校)で学校菜園を始める時に、
「なぜ学校菜園が大事なのか」を書い
た書類を数種類、市長、児童青少年課
校長先生、父兄に宛てて作りました。
今後、これらをネット上に掲載して、
みんなに使ってもらえるようにしよ
うと思っています。コピペするだけで、
地元の学校に働きかけられるようにな
ったら広がりが加速するかな、と。日
本では、失敗することや自分の言葉で
発言することを恐れたりする人が多い

ので、概念で共有するだけではなく、
具体的な素材があるといいかなと思っ
ています。
Z○MAMAでも誰かよいことをしてい
たらすぐ共有します。13カ月間(注)タウ
ンホール・ミーティングへ参加した友人
の発言をアップして素材を提供し、キ
ャンペーンを展開しました。全米のタ
ウンホールがどこにあるか郵便番号で
わかるサイトのリンクも貼りました。
そのことによって、色んな人がタウン
ホール・ミーティングへ出かけて、公
共の公園や歩道脇でのラウンドアップ
の使用禁止を訴えました。どんな小さ
なことでも、何か勝ち取ったことがあ
ったら情報を共有して、国内に限らず
世界的に情報発信ができます。知識を
共有したり誰かに元気を与えたりする
ことができます。
他にも、自分の子どもの幼稚園のお
やつをオーガニックに変えてほしかっ

たのですが、誰もやる人がいないので、
学校から予算をもらい、自ら買い物し
て、買って来たクラッカーやバナナを
何等分するか計算してメモを作りまし
た。幼稚園生には水や果物とクラッカ
ーがあれば充分なので、砂糖たっぷり
のフルーツジュースは買いませんでした。
この内容をインターネット上で共
有して、全米の母親たちがオーガニッ
クで遺伝子組み換え食品ではない「幼
稚園おやつ作戦」を実行しました。
常に私の頭の中では全国展開を想定
して、地元でやったことを全国に広げ
られるように様々な方法で発信します。
それぞれのやり方に合う人と合わない
人がいるので、多様な情報載せるこ
とで、どこかでつながれるかもしれな
いので。
愛さんは複数の組織と関わっている
とのことですが、専従のスタッフはい
るのですか？
○私自身はどの組織にも、一メンバ
ーとして関わっています。どの組織に
も、5〜10人のコアメンバーがいます
が、まだ代表の1人に固定給をつけら
れるかどうかの段階で、自身の給与
は、あつたりなかったり(笑)。
16年間、専従スタッフとして働いた
「ピースポルト」は別で、100人以
上の有給スタッフが活躍しています。ピ



スローフードを通じて出会ったタイで活躍するシェフも「そっか」の収穫祭に参加。



「相挺為平權、全民撐同志」による広告。

現在、台湾の立法院では、民法972条の改定をめぐる議論が進んでいます。同条項は、婚姻について規定されています。現在は結婚の当事者が「男女」と記されていますが、改定案には同性婚の規定が加えられています。台湾でも、LGBTは、長く無理解にさらされてきました。同性婚支援団体が2017年の旧正月に打ち出した新聞広告では、赤いセーターを着たゲイのカップルがそれぞれの家族や親族に囲まれ、「彼女いるの?」「結婚しないの?」という質問をされています。LGBTの正月にありがちな光景を描いた広告は、最後に添えられた「来年こそは正月を一緒に過ごせますよう

改定法案をめぐる政治の動きと学生たち
政府系シンクタンクの世論調査によれば、民法972条改定法案の支持者は50%に達しており、特に20代の支持率が高くなっています。日本でもファンの多い歌手の張恵妹のような芸能人

改定法案をめぐる政治の動きと学生たち
法案の成立を求めて、2016年12月10日に20万を超える人びとが、台北の中心部にある總統府前に集まりました。台湾の他の都市でも同日に行動を起こし、東京でも早稲田大学の大隈講堂前に台湾人留学生在が200人ほど集まって、イベントを開きました。

民法972条の改定運動には、多くの学生が参加しています。それは、2014年のひまわり学生運動以降の市民意識の高まりが一因であると言えるでしょう。私が大学3年生だった2012年、政治参加に熱心な学生は決して多くはなく、「極端な人」というイメージを持たれがちでした。しかし、ひまわり学生運動の最中に学校に行かず立法院前に集まった経験は、キャンパスの雰囲気を変えたのです。今では学生が政治行動に参加し、その様子をSNSで拡散するのが、あたり前の光景になりました。同性婚は、政治体制(中国との関係)の問題と関わらないため、政治的態度を表明しやすいイシューです。愛する人とパートナーになることの社会的承認という、誰にも与えられべき権利に対する願いが、人びとを行動に駆り立てています。同性婚法案の話をする時、日本や韓国の友人は、台湾でそんなことが起きているのかと驚きの反応を受けることが多いです。北東アジアの市民は、まだまだお互いのことをよく知らないのかもしれません。台湾の政治参加を楽しむ、自由な雰囲気、アジアの市民社会を刺激することを願っています。

ネグロス・キャンペン岡山30周年企画トークイベント
若者たちと語り合う
—フイリピン・ネグロス島の村づくり&岡山・美作の地域おこし

鬼木のぞみ / おにき・のぞみ
岡山市議会議員

ネグロス・キャンペン(JCNC)岡山は、2016年8月に30周年を迎えました。この10年間はゆっくりとした歩みでしたが、それでも30年間つながってきたからこそ実感できる嬉しさがありました。2015年のJCNC岡山は、フェアトレードを楽しむもと、『ハリーナ』でしか存じ上げなかった、APLAスタッフの久保久美さんと野川未央さんを岡山にお招きして話を聞きました。お二人にお会いして、JCNCがとてもいい形若い皆さんにバトンタッチをされ、APLAとして花開いていることを実感しました。そして、とりわけネグロスに



の役割を見つけて、次のステップにつなげていくそうです。それを聞いた寺田くんからは、日本の高校生たちが、ネグロスの明るい若者たちと交流するなかで、自分の気持ちを言葉にして、元気になるって話をしてくれました。こんな感じで、

RCを卒業した研修生たちが、自分の村で養豚を柱に村づくりをしている写真を見せていただき、感無量でした。農場長にネグロス現地の農民であるカルロスさんが就いてから、それなりにまわり始めたように思います。ネグロス・キャンペンを始めた後の10年間には内戦がきびしく、それから、農業労働者が農民になる困難さを痛感してきました。一朝一夕にはいかない、30周年を迎えたからこそその実りをしっかりと感じ、ネグロス現地はもちろん、APLA、ATJ、全国の支援グループなど、粘り強くともに歩まれた皆さんに感謝ばかりです。何より、ネグロスでも日本でも、素晴らしい若者たちが育まれ、これ以上の幸せはありません。

「自分ごととして考える、とりくむ」という活動を意識してやってきました。岡山県的美作地方(県北)には、地域おこし協力隊として、中山間地域でがんばっている若者たちがいて、私はこの間、気持ちのいい刺激をいただけてきました。その一人が、藤井裕也くん(30歳)でした。この二人が組んだらいい企画になるだろうという私たちの直感は大当たりで、初対面の二人でしたが、尊重しあう微笑ましい兄弟のように息が合っていました。

二人の若者たち
藤井くんは、地域おこし協力隊を卒業して、山村エンタープライズという団体を立上げ、「人おこし」プロジェクトをしています。不登校や引きこもりの若者たちが、村の高齢者の皆さんから色々と頼まれるなかで、自分自身

話を聞きながら、私が二人の若者に感心したのは、取り組むにあたっての姿勢でした。藤井くんが、地域おこし協力隊として活動をはじめ前の一年間、その地域で草刈りを毎日していたそうです。寺田くんは、APLAのスタッフになる前の半年間、ネグロスのカネシゲファーム・ルーラルキャンパス(RFRC)で研修生の若者たちと友だちとして過ごしたそうです。二人とも、信頼という土壌作りから始める大した若者たちだと思いました。

ゲストのお二人に、これから一文字で表してもらいました。寺田くんが「繋」、藤井くんが「拓」。色んな「繋」がりをつくりながら、自分たちで半歩先を「拓」いていこう。JCNC岡山30周年企画は、2人の若者&参加者の皆さんと一緒に、未来への希望と元気を分かち合う時間となりました。ありがとうございました。JCNC岡山としては、30周年企画Part2を企画中です。よろしければ、岡山にいらしてくださいね。■

多様なパートナーシップのために
—台湾における同性婚法案をめぐる

林彦瑜 / リン・イェンユイ
台湾大学政治学研究所修士3年生



2016年12月10日、總統府を取り囲む法案支持者(台湾苹果日報)。

が改定に賛同を表明していることも、若者の高い支持の原因と考えられます。このような世論の支持が、改定を後押ししてきたのです。2016年1月に民進黨の議席が立法院で過半数を

民法972条の改定運動には、多くの学生が参加しています。それは、2014年のひまわり学生運動以降の市民意識の高まりが一因であると言えるでしょう。私が大学3年生だった2012年、政治参加に熱心な学生は決して多くはなく、「極端な人」というイメージを持たれがちでした。しかし、ひまわり学生運動の最中に学校に行かず立法院前に集まった経験は、キャンパスの雰囲気を変えたのです。今では学生が政治行動に参加し、その様子をSNSで拡散するのが、あたり前の光景になりました。同性婚は、政治体制(中国との関係)の問題と関わらないため、政治的態度を表明しやすいイシューです。愛する人とパートナーになることの社会的承認という、誰にも与えられべき権利に対する願いが、人びとを行動に駆り立てています。

「自分ごととして考える、とりくむ」という活動を意識してやってきました。岡山県的美作地方(県北)には、地域おこし協力隊として、中山間地域でがんばっている若者たちがいて、私はこの間、気持ちのいい刺激をいただけてきました。その一人が、藤井裕也くん(30歳)でした。この二人が組んだらいい企画になるだろうという私たちの直感は大当たりで、初対面の二人でしたが、尊重しあう微笑ましい兄弟のように息が合っていました。

超えると、改定法案が提出され、審議が進んでいます。同性婚支援団体からの求めに応じて法案の賛同に署名した議員の割合は、6割に達しようとしています。蔡英文大統領も、選挙戦の最中に「婚姻に関する平等権」への支持を表明しています。改定法案の成立に有利な政治状況にはありますが、反対派も巻き返しをはかっています。宗教団体を中心に、伝統的な家族の崩壊や性道徳の乱れに対する懸念を宣伝しています。その宣伝は必ずしも説得的とは言えませんが、地元の議員に対して反対するように圧力をかけており、今後の展開がどうなるかは、まだまだ予断を許しません。

同性婚法案の話をする時、日本や韓国の友人は、台湾でそんなことが起きているのかと驚きの反応を受けることが多いです。北東アジアの市民は、まだまだお互いのことをよく知らないのかもしれません。台湾の政治参加を楽しむ、自由な雰囲気、アジアの市民社会を刺激することを願っています。

03

カネシゲファームの ドタバタ騒ぎ



寺田 俊 / たらた・しゅん
APLA事務局



これから出発でドキドキ、ワクワクの4人。

若手農民交流のための東ティモール渡航前日の夜のこと。前夜祭と称し、みんなでお酒を飲んでいたので、そこに1通のメールが。それはフィリピン航空からフライト時間の変更を知らせるメールでした。変更後の時間になると、マニラでの乗り継ぎに45分しかなく、インドネシア行きの飛行機に乗り遅れてしまうかもしれない。どうして前日になって……と思いつつ、急いでフィリピン航空に電話をしました。なかなかつながらず、やっこの思いでつながったところで、事情を説明し、1本前の便に変更することに。そんなことが起きているなんてもちろん知らないみんなは「シユンは飲まな

出発前の一人ドタバタ劇！

いのか？」「何やってんだー？」と、宴会中。1本前の便に空席があるかの確認と変更手続きをしてから折り返しの電話をしてみたら、不安でソワソワ、イライラ……。明日の出発時間が早まること、マニラ空港で長い時間待たないといけないことを伝えると、「マニラでぶらぶらできるじゃん！」「どこいくー？」と盛り上がり、その明るさに焦りと不安が吹っ飛びました。しかし、インターネットでフィリピン航空の明日のフライト状況を確認してみると、変更の手続きをしているはずの1本前の便の表示がない！！不安が復活し、増してきました。それに反し、さらに盛り上がっていく前夜祭。10分以内と言われていた折り返しの電話も1時間半後にやっと来て確認が取れました。

出発当日も何を怪しまれたか、イミグレーションで20分ほど質疑応答あらゆる書類を提出しました。このときもソワソワしていた私と落ち着いているネグロスのみんな。今回ドタバタしていたのは私だけでした。ねいつもネグロスのみんなには焦らないこと、その場を楽しむことを教わります。しかし、日本に戻るとその忙しさに忘れてしまいます。

04

Have you ever seen the Cinema? あの映画を見たかい? 06

『鉄道員 ほっほや』(1999年、日本)
【監督】降旗康男 【出演】高倉健、大竹しのぶ、小林稔侍、広末涼子、志村けん

重政栄一郎 / しげまさ・えいいちろう
エディトリアル・デザイナー



『鉄道員 ほっほや』
発売元：東映ビデオ
価格：2800円(税別)

「誇り」の末期……

麻線が決まっている北海道のローカル線、その終着駅の駅長・佐藤乙松が主役。定年退職を間近に控える初老の男。彼の人生を振り返りつつ、正月の不思議な数日を描く……。

この物語では乙松を誇り高き立派な鉄道員として敬意を持って描いている。誇りを胸に妥協なく、寡黙に実直に働く姿は、確かにカッコイイ。しかし幼い一人娘や長年連れ添った妻がいまわの際にある時でさえ仕事を優先するのはいくら何でも異常だ。仕事依存症の疑いすら感じられる。

「誇り」「やりがい」「夢」……といった美しい言葉は、使われ方によって人を無間労働地獄へ導く悪魔の呪文ともなる。特に使用者側の口から発せられる時は注意が必要だ。

劇中、一人の男が数人の男にリンチされる場面がある。彼らは全員、近くの炭鉱で働く炭鉱夫。暴行を働くのはその労働組合員たち。男がスト破りしたことへの制裁だ。

殴られる男は、かつて働いていた

九州の炭鉱が廃坑となり(＝失業して、流れてきた臨時工(＝非正社員)。給料は日当であろう。休めば当然収入は無い。しかも幼子を独りで養育しているシングルファザーだ。ストなんぞに付き合っている余裕はない。

組合員(＝正社員)たちには、この男とその息子の苦境への想像力も思いやりも、全く無い。殴られながら男は叫ぶ。「合理化で最初にクビを切られるのはむしろ臨時工だ！」

これは現実・現在の非正社員の境遇と同じだ。伝統的な大企業の正社員や公務員が作る大労働組合は労使協調して(＝なれあって)でも、自らの既得権益を守ることが最も大切な活動だ。敵寄せは非正社員が被せられる。そこにあるのははや階級などではない、身分だ。そしてそれは明らかに差別の思想に支えられている。

乙松の盟友の同僚社員は定年退職後、子会社のリゾートホテルの重役に就任する。これなども滅私奉公の末に得られる大企業正社員の特権のひとつである。(生涯一鉄道員がリゾートホテルの役員として何ができるであろうか?)

映画のラスト、雪が積もる駅のホームで独り、倒れ、こと切れている乙松が発見される(これも孤独死?)。もし死因が過労であったのなら、その死はあまりにも哀しい……。

01

カカオ キタ kakao kita

カカオ民衆交易奮闘記

18

津留 歴子 / つる・あきこ
オルター・トレード・インドネシア社現地駐在員



大鉈で下草刈りをする女性生産者たち。

パプアの森はワンダーランド！

インドネシア・パプア州では、カカオは森の中で他の多種多様な樹木と混在して植えられています。最近ブラップ村で、カカオが栽培されている森の手入れを共同で実施するという活動に参加しました。森のカカオは周囲の樹木が密生すると十分な陽の光を受けられず、病虫害を受けやすく収量も落ちます。その日はマルテン・タルコさんの森の手入れでした。マルテンさんは少し体に不自由があり、一人でカカオの森を手入れするのは大変です。そこで仲間の生産者30人ほどでマルテンさんの森に入り、カカオ樹周辺の木の枝を落とし、下草刈りをしました。

マルテンさんの森は村から10キロも離れたところにあり、普段はパームオイルを運搬するトラックをヒッチハイクしているそうです。パラノと呼ばれる大鉈を力いっぱい振り下ろし、木の枝や身の丈に伸びた野草を勢よく切り落としていきますが、むやみやたらに刈っているのではありません。彼らは役に立つ植物をよく知っています。私は一緒に森に入ったものの戸惑うばかり。近くの人に「これは刈ってもいいですか？」と聞かなければなりません。「それはピン(パプア人が大好きな嗜好品)の若芽だから切っちゃだめ」「それは弓を作るときに材料よ」「それは炒めるととても美味しい葉っぱよ」という風に、森はパプアの人びとにとって食材・資材の宝庫と言われるのがよくわかります。作業中誰かが野ネズミを見つけたら、みんなで一斉に追いかけて、見事に仕留めて大喜び。野ネズミの肉はお昼のご馳走になりました。赤いチェリーが実ったコーヒの木も発見。コーヒは収穫しないので実が土に落ちてあちらこちらで自生しています。カカオ樹も狭い間隔で欲張って植えたのかと思いきや、自然に落ちた実から育った木々でした。ああ、本当にワイルドなカカオ！ 作業を終えて森から出てきた人びとの手には野草や果物や即席で作った槍など千差万別の収穫物。豊かなパプアの森よ、永遠に！

02

ひろつくとゆうこの 百姓の100章

A Farmer have One Hundred Stories.



斎藤 博嗣 & 裕子 / さいとう・ひろつぐ & ゆうこ
一反百姓「じねん道」



種時きのコツは「恋の4カ条」と同じ「Timing! Feeling! Happening! No Thinking!」だともんなに伝えようと、畑で大いに盛り上がり、「フランスでも誇りよ」と固く握手を交わしました!! (2017.3.13 森下さん撮影)

※「一反百姓「じねん道」の自家採種のタネは、APLA SHOPで購入できます。

第6章 「種時きは世界共通言語、土は無限のプラットフォーム」
「国際家族農業年」という世界の新たな潮流と共に

国連が定めた「国際家族農業年2014」を機に、FAOなどの国連機関は、大規模農業推進から、小規模家族農業を重視する政策へ転換を求め、世界に対し認知度を高める取り組みを現在も継続中。家族農業が食料安全保障や食料主権、真の経済成長と雇用創出、貧困削減、生物多様性の持続的管理や文化的遺産の保護等々に貢献していることが実証的に明らかになっている。参照：国連世界食料保障委員会専門家ハイレベル・パネル「家族農業が世界の未来を拓く」農文協、2014年。

私たちは、14年11月立教大学や参議院議員会館で『国際家族農業年』から始まる小規模家族農業の道』のセミナーが開かれた際、講演者として来日されたフランス農業開発研究国際協力センター(CIRAD)のボスクさん(HLEPEのリーダー)とスリソリーさん

私たちは、14年11月立教大学や参議院議員会館で『国際家族農業年』から始まる小規模家族農業の道』のセミナーが開かれた際、講演者として来日されたフランス農業開発研究国際協力センター(CIRAD)のボスクさん(HLEPEのリーダー)とスリソリーさん

「緑の哲学」を発信し続けます。

小さな家族農業「一反百姓」は、1日24時間を自習自習する永続可能な未来の暮らしと仕事。国際家族農業年という国際社会の新展開に対し、自らの両手両足にタネと土を取り戻す、地球市民皆農「みんな百姓になれ！」を通じ、私たちは日本から「緑の哲学」を発信し続けます。

らんと意見交換した。今春17年3月、ガスランさん(フランス国立農学研究所)を加えた3名の方々が、じねん道の一反百姓農園を視察に訪れ、フィールド交流。畑では種の種類や○科を区別せず、果樹・樹木・穀物・野菜・緑肥など様々な種をみんなで豪快にばら蒔いた。山林では各自手に持っている分、枝を拾い集め、庭で焚き火をしながら暖をとり、おにぎりを一緒に食べた。自家採種、一反百姓、Natural Farming、「家族農業年+10」のキャンペーンなど世界の動きは話は尽きなかった。

通訊の森下さん(Otake Agri)、野川さん(APLA)、コーディネーターの関根さん(愛知学院大学)、貴重な機会をありがとう！ 交流を通して「種時き」は、肌の色、宗教を超えて互いを理解しあう(世界共通言語)で、同じ時代を同じ地球を生きている者同士まさに「土」は(無限のプラットフォーム)だと改めて確信した。

APLA 食堂

Kitchen APLA

今日の食材 **バナナ**

吉田友則 / よしだ・ともものり
出張料理「きまぐれや」シェフ

バナナ、ハテナ?

これだけ、身近にあって時にして果物であることさえ忘れてしまうほど浸透しているものがあるだろうか？ バナナって言われて何を連想する？と聞くと「甘い」「酸味がないので小さい子どもに食べさせるには腹持ちいいので」とか……。確かにマラソンのエイドでも配られるくらいだから、栄養バランスも優秀。でも一山いくらでとかバナナの叩き売りなどの言葉もあったりと、身近さゆえに実は謎多きものでもあるのかも。どれだけバナナのことを知っているのだろうか。

松尾芭蕉とバナナ。バナナは古く芭蕉と呼ばれた。実を食べるものは実芭蕉。分類でいうとバショウ目バショウ科に属する。松尾芭蕉の俳名の芭蕉は門人から芭蕉の株を贈られ大いに茂ったことに因む。まじか、凄いな。種の種類によっては熟すまで毒を持つ種類も存在するという。どれだけ種類があるのだろうか？という興味と、元々自然界に自生していた植物であることを感じさせてくれる。売り場で色んな種類が置いてあるなか、何気なく手に取るが、ビジュアルとは裏腹な深さすら感じてくる。

バナナが食用として日本に流通が始まるのは明治後期。本格市場参入は戦後。それでも輸入統制でバナナ4、5本で当時のサラリーマン給与の3%と高価だった。1963年の自由化以降が本格的流通。と、実についてはばかり気がいくが、バナナは花も食べる。日本では馴染みがないが、蕾の外側をむいてゆがいてから、炒めて食べる。ふきのとうみみたいな感じ



バナナの下になるラグビーボールのような形をしたのがバナナの花。

筆者プロフィール

出張料理「きまぐれや」シェフ 吉田友則

製菓製パンの専門学校で勉強した後、料理の世界に入る。長野県八ヶ岳の井出忠利氏に師事し、ジャンルに囚われない季節感を大事にした料理を目指すべく海外に渡る。帰国後、イタリアン、フレンチ、洋食屋などで経験を積み、口福の残る料理を提供すべく独自の活動を展開している。日本一移動するレストラン「きまぐれや」は16年目を迎え、開けたドアは2400軒。



かな。ついで葉について。料理のお皿にはよく使用されて、蒸し料理、簡易家屋の屋根材にも使われる。更に追加で言えば、枯れた樹木は、製紙用のチップにもなり、果実の香りがするらしい。ホント凄いな、バナナ。

味についてのあれこれ。バナナは甘い、ねっとり。甘さの質はテンブンだが、基本昼夜の寒暖差の大きな地域で生産されたものが多くなる。でも甘さをより感じるには、酸味が必要になる。勿論バランスなのだが、甘く感じるバナナほど、実は絶妙なバランスで入っていることもお忘れなく。100グラムのバナナ栄養価に対して酸味として人間が感じる栄養素は15~19%が平均値と出ていたりもする。また、生の黄色の若いバナナを35度のお湯に5分つけて数時間放置すると糖度が格段にあがる。これは、僕もドルチェを作るのにバナナ使う時に似たようなことをしている。自家追熟。保存性もかなりあがり、2週間ほど黒くなりません。ぜひお試しください。

愛されるが故に、世界中で食されるバナナ、物凄い量が生産、消費されるが、廃棄されるものも当然ついてまわる。少しでも無駄にならないような努力と工夫が必要でもある。僕は今、バランゴンバナナをマスコバド糖と合わせて缶詰の試作を始めている。二次利用できるようなアイデアをひねっている。

バナナの歌と表現。バナナは世界中で歌にもされている。色々な意味でその形や色で表現にも使用されたり。時には人種差別的表現にも。そしてそれを食べることで人の輪ができてきたり……。なんだかあの色合い、形といい、穏やかな気分になりませんか？ 世界中にこれほど浸透した果物。

最後に、バナナの皮。基本食すことはないが、滑って転んでのエピソードシーンも世界共通の笑いの言語なのかも。ミサイル射ったり、色々ある世界ではありますが、どうしてもやらないといけなければ、バナナの皮投げ合って、転んで笑って手を握れる世界になって欲しいものだなあと。バナナに教わった気がする。

バナナ凄いな。

自慢する人

山本大五郎 / やまもと・だいごろう
KIZAHA COFFEE

農

家目指して、20年前に「やんばる(山原)」と呼ばれる沖縄本島北部地域の

大宜味村に移住しました。何か沖縄の在来作物を育てたいと思っていったところ、在来の黒豚アグーの存在を知りました。その肉は特に脂身が美味らしく、容姿は豚というよりイノシシ似。これは面白いのではないかと！ そしてもうまい豚肉が食べたかったのです。

そうはいっても豚に触れたこともなかったため、まずは養豚場勤務という豚飼の見習いを4年程続けた後、土地を貸してもらい、一般的な白豚の交配種の子豚を放し飼いのすることから始めたのち、先輩からオスドメスを譲っていただき在来豚アグーの飼育を始めました。

「豚飼いは始まりでしたが、次は、肉にして、買ってもらう「肉屋」を

珈琲収穫。完熟のみを手摘みします。



わたしの友産友消じまん 12

アグー豚とコーヒー引き売りの巻

しなければなりません。とはいっても、店を構えられるわけではないので考えました。パックまでは肉屋に委託し、自分で注文を取って販売する。当初は一頭分の注文がなかったのてすが、現在は、お約束した飲食店や個人の方に発送でお渡ししています。

「豚飼いは他にコーヒー栽培をしています。在来とは真逆ですが、どうしても育ててみたいと思ったコーヒー。10年前に植えた親木の実から苗を育て、4年前に畑に定植しました。まだ全ての木からの収穫はありませんが、栽培、精製、焙煎からドリップまでを自分で手がけ、イベ



産子数は5頭前後。西洋豚の半分です。



地面の上で放し飼いです。

生後1年でと畜です。



自家栽培、自家精製、自家焙煎です。

ントなどでその場で飲んでもらうてお代をいただいています。コーヒーも飲むのは大好きで、結局は自分が欲しいもの。そして、直接買ってくれる人に届けています。自分にはこのような小さな世界のやりとりで、食べてもらっている！という実感があつていっているように感じています。

KIZAHA COFFEE

Facebook: <https://www.facebook.com/KIZAHA-> 一喜如嘉の珈琲-1454663908124284/
Blog: <http://kizaha.exblog.jp>

編集後記

今号の特集、初めて顔合わせをするゼンさんと小野寺さんの対談がどうなるか期待と不安でいっぱいでしたが、同世代の女性同士の対談で話はずみ、内容も半分ほどしか盛り込めず……。紙面がもっとあればなあと苦慮した編集作業でした。二人とも地域で活躍しつつも、常にグローバルな視点を持っている点が共通していると実感。たくさん刺激をもらいました。この対談以降、自分の足元でもできることを悶々とする日々。

今号で、いくつかのコーナーが終了となります。次号は大幅に紙面リニューアルの予定です。お楽しみに！（吉澤）

今号を貫いているテーマがある（ように勝手に感じている）。それは特集の対談に呼び出した小野寺さんが話してくれた「消費者から、主体者へ」ということ。自分たちが食べる物を選ぶこと、つまりお金の使い方を意識的に変えることが重要であることは言うまでもない。ゼンさんが米国で積み重ねてきた実践例にも大きな刺激をもらう。同時に、いつまで「消費するだけの自分」でいるのか、という問いは自分の中で年々大きくなっていく。種を蒔く、手を動かす、みんなで一緒に食べる。東京で暮らしていてもできることを見つけて、実践していきたい。（野川）

ハリナ HALINA

2017年5月号 vol.02-no.36
2017年5月1日発行

【編集者】
吉澤真満子
野川未央

【表紙写真】
長倉徳生

【デザイン・制作】
十年舎

【編集・発行】
特定非営利活動法人 APLA
(APLA/あぷら: Alternative People's Linkage in Asia)
〒169-0072
東京都新宿区大久保2-4-15
サンライズ新宿3F
tel. 03-5273-8160
fax. 03-5273-8667
e-mail info@apla.jp
URL http://www.apla.jp

【印刷】
株式会社セイズ

事務局の動き(2017年2月～2017年4月)	
2月 2日	ハルシステム東京(三鷹)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 3日	ハルシステム埼玉(ふじみ野)及びカフェスロー(東京・国分寺市)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 4日	Good Day Market実行委員会(福島市)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 5日	NPO法人そらまめ(福島市)及びUrban Research Doors(東京・虎ノ門)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 7日	東京学芸大学附属高校の授業で吉澤が講義しました。
2月 7日	アユス仏教国際協力ネットワーク新年会に野川が参加しました。
2月 7日～23日	フィリピンに秋山と寺田が出張しました(寺田は3月15日まで)。
2月 10日	カフェスロー(東京・国分寺市)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 11日	どんぐりの木(千葉市)及びなんでもフェスタ(東京・浅草橋)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 12日	生活クラブ生協エスコープ大阪及び健康工房シムラ(東京・羽村市)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 19日	絵本屋Polais(沖縄・名護市)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
2月 25日	理事会・評議員会を開催しました。
3月 1日～8日	若手農民交流(ネグロス×ラオス)がネグロスで開催され、寺田がアテンドしました。
3月 5日	大地を守る会オーガニックフェスタにチョコレート・アライアンスのメンバーとして参加しました。
3月 5日	東京朝市アースティマーケットに出店しました。
3月 9日	BMW技術協会基礎セミナーに参加しました。
3月 11日	ハルシステム埼玉平和募金贈呈式に参加しました。
3月 11日	ハルシステム東京・東日本大震災復興支援シンポジウムに物品販売で参加しました。
3月 11日～12日	フランス人研究者の方たちを、お蔵フェスタ、自給農園ミルバ(千葉県)、じねん道(茨城県)へ案内しました。
3月 12日	cosh(東京・板橋区)で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました。
3月 14日～22日	東ティモールとインドネシアへ野川が出張しました。
4月 3日～9日	若手農民交流(ネグロス×東ティモール×ラオス)を東ティモールで実施し、野川、寺田がアテンドしました(野川は13日まで出張)。
4月 10日～13日	フィリピンへ寺田が出張しました。
4月 15日	理事会が開催されました。
4月 22日、23日	アースティ東京2017に出店しました。

事務局からお知らせ

年次総会の日程

第10回総会を2017年6月3日(土)に開催します。APLAのこれからの10年について意見交換する場を設けたいと思います。ぜひご参加ください。

APLAマンスリー募金スタートします。

APLAでは、新しいサポーター制度を導入し、新たに「マンスリーサポーター」と「APLAサポーター」を設置します。同封の案内をご確認ください。ぜひ、知人の方へのお誘いをお願いします。リーフレットが必要な方は郵送しますので、事務局までご連絡ください。

以下の呼びかけに賛同・協力しました。

- TPPに反対する人々の運動
- イスラエル入植地問題に関わる『日・イスラエル投資協定』の問題点についての要覧

この現場に、2016年6月と17年2月に訪問し、BTCコーンを栽培するメンバーの声を聞きました。最近生産を始めた生産者は、1haあたり約4万ペソ(約10万円)のコストがかかり、収穫後に約7万ペソ(約17.5万円)の売上げがあるそうです。1haあたり約3万ペソ(約7.5万円)の利益があるとのことですが、一方で、長年BTC

が、かつてバランゴンバナナを生産し、日本に送っていたSABAPA(サンタマリア・バランゴン生産者組合)のメンバーがいるアルフォンソリスタも、バナナ以外の主な生産物はBTCコーンです。

From Philippines【フィリピンより】

ルソン島北部・遺伝子組み換えとうもろこし畑で

フィリピン・ルソン島北部のイフガオ州には、遺伝子組み換えとうもろこし(BTCコーン)の畑が果てしなく広がっています。台風被害や病害で現在は出荷が停止しています。かつてバランゴンバナナを生産し、日本に送っていたSABAPA(サンタマリア・バランゴン生産者組合)のメンバーがいるアルフォンソリスタも、バナナ以外の主な生産物はBTCコーンです。



延々と広がる遺伝子組み換えのとうもろこし畑。

前述したSABAPAとUnited Family(ユニティッド・ファミリ)です。地域の多くの農民たちは、有機農業について知りません。化学肥料や農薬を使った農業しかしたことがなく、これまでは有機で農業をするという考えもなかったそうです。United Familyのメンバーからも「有機農業には興味があるが、具体的にどのようにしていけばよいのか分からない」と質問がありました。有機農業をしようにも技

術的なサポートもなく、状況を変えていくには依然としてハードルが高く困難を抱えています。一方、なかには、州が主催する農業・養殖の研修に参加した時に有機農業に出会ったメンバーもいます。それ以降興味を持ち、今では自分で堆肥も作り、有機野菜を育てているそうです。こうした様々なメンバーが集まり、なんとか今の状況を自分たちで変えていこうとしています。

ここで、日本から有機農業の技術移転を！とも考えてしましますが、フィリピンと日本では環境も事情も異なり、日本から技術を教えたとしてもすぐに有機農業に転換できるとは考えていません。まずは自分たちで有機農業を学び、始めてみるのが重要でしょう。ルソン島北部の違う地域で有機農業を実践しているグループもいるので、そうした地域を訪問するスタディーツアーや、その農家たちにセミナーをしてもらうことも有効かもしれません。APLAとして今後どのようにこの地域



SABAPAとUnited Familyのメンバーとミーティング。

〈注〉土壌中に生息するBTC菌がもつBTCたんばくは昆虫の消化管を破壊する作用があり、とうもろこしにこの遺伝子を導入し、そのたんばく質を発現させることにより、それを食べた昆虫を殺してしまう害虫抵抗性遺伝子組み換えのとうもろこし。